

信越化学工業株式会社

2025 年 3 月期第 3 四半期 決算説明電話会議要旨

日 時	2025 年 1 月 29 日（水） 13：30 - 14：30
開催場所	信越化学工業（株）
会 社 側 出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	2025 年 3 月期第 3 四半期 決算短信

* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2025 年 3 月期第 3 四半期（10-12 月期）
連結売上高： 6,632 億円（前年同期比 6%増）
営 業 利 益： 1,787 億円（前年同期比 1%増）
経 常 利 益： 2,013 億円（前年同期比 7%増）
当期純利益： 1,384 億円（前年同期比 32%増）
- 経常利益で前年同期比 7%の増益、当期純利益では前年同期比 32%の増益にて締めくくることができた。

【セグメント状況】

- 【生活環境基盤材料】：
 - ・ 北米国内の塩ビ需要について、10-12 月の国内販売は季節性に沿った動きを示した。業界統計によれば、10-12 月の国内販売は 7-9 月比では 8 %減ったものの、対前年同期比では 8 %伸びた。住宅着工件数は 12 月に 150 万戸の水準に盛り返し、住宅許可件数も 150 万戸に近い水準を保っている。また、中古住宅販売は昨年 10 月から上昇に転じており、先行指標として見ている。実際、新築住宅販売は 11 月から上昇している。1 月の米国内の需要は V 字回復しており、2 月の値上げを打ち出した。継続して値上げに取り組む考え。北米以外の市場では、中国からの輸出が主因で需給は依然緩んでいるが、値段の比較的良いところで販売を確保している。
 - ・ ソーダの市況は、直近は一進一退なるも総じて持ちこたえている。
 - ・ 米国新政権の政策は、とにかくセンセーショナルなことが話題になりがちだが、三つのことに注目している。第一に、インフレ退治を新政権は付託された任務（mandate）

としていること。実際、初日に発布された大統領令の一つにそのことが明記されており、そのために住居を増やすと明言している。第二に、昨年のハリケーン被害といまだ続いているロサンゼルス火災。被災した方々をたいへんお気の毒に思っているが、相当な復興需要が期待されている。第三に、IRA（Inflation Reduction Act）の下での投資はAI インフラほかの形に置き換わる。

- 【電子材料】：

- ・ 市場の復調は依然一様ではなく、品種や用途ごとに、また客先ごとに異なっている。300mm ウエハー需要の回復は、ウエハーの在庫水準により、客先ごとに時期のズレがあるものの、全体として 4-6 月期からの回復を期待している。露光材料の需要は引き続き順調。半導体市場が今年 12-15%で伸びるという業界予想に違和感はない。ウエハーにしても露光材料にしても、幅広い品揃えと技術対応をもって、半導体材料の需要増と技術進化による数量増を取り込んでいる。
- ・ 希土類磁石は、HDD 用途がたいへん活況であり、積極的に拡販している。
- ・ 全ての製品について、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進めている。

- 【機能材料】：

- ・ シリコン製品の価格改定に引き続き取り組んでいる。加えて、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品を格段に伸ばすべく総力を挙げている。

- 【加工・商事・技術サービス】：

- ・ 当セグメントの収益は引き続き安定している。

〔資本政策について〕

- ・ 先週完了させた公開買付け方式による自己株取得（自己株 TOB）は、金融機関の政策保有が解消されることを踏まえ、当社株の流動性や株価の観点から能動的に動くべきと考え実施したもの。あくまでも資本効率の向上と株主の皆さまへの利益還元を図る目的からこれまで実施してきた自己株取得の一環。
- ・ 手持ち資金はこれまで同様に、買収を含む大型投資案件、5 年前に経験したパンデミックのような経済的ショックに対する備え、そして株主還元にあてる考え。これからも手持ち資金を有効に使っていく。今、自己株取得の実施には好機と考えている。手持ち現金はこれ以上増やさず、保有高について、さらなる検討を加えていく。

【補足説明（経理部長 笠原俊幸）】

- 【決算短信 12 ページ】：

- ・ 損益計算書の特別利益について、投資有価証券の売却は政策保有株式に係るもの。段階取得に係る差益は三益半導体の子会社化に係るもの。

- 【決算短信 16 ページ】：
 - ・ ここに報告書を掲載しているとおり、会計監査人のレビューを受けています。
- 【決算短信 18 ページ】：
 - ・ 電子材料セグメントの 2Q から 3Q の動きについて、売上高は増加し、営業利益は減少している要因は、1) 品種構成の差が大きかったこと、2) 新たな固定資産の繰り入れに伴う償却費の増加、3) 棚卸資産の内容精査に基づく一過性の調整、4) 海外子会社との取引における決算期のズレに起因したもの、など。
- 【決算短信 20 ページ】：
 - ・ 現預金と有価証券を合わせた手持ち資金の実質増減では、3 月末より 1,309 億円減少。
- 【為替感応度】：
 - ・ 経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 47 億円、ユーロは年間 2 億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	シンテック 4Q（2024 年 10-12 月）の業績について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬場は塩ビの需要が落ちる時期で、10-12 月の米国国内の出荷（業界）は、前四半期比 8%の減、12 月は 11 月に比べて 13%減少し、12 月はかなり厳しい月でした。そのようなことから、シンテックの 10-12 月は 7-9 月に比べ減益で、前年同期と比べても減益となっています。
Q	シンテックの 12 月末の塩ビの在庫について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月に北米のお客さまが相当在庫を絞り込んだことによる受注減、一方で、当社は新工場を立ち上げて稼働したので、12 月末の在庫は増加しました。ただ、1 月は 12 月の反動もあり、V 字で注文が急増しました。それに伴い出荷をしています。
Q	シンテックの年次の契約更改に関して
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約に絡んだ値段の調整が起きました。当社はしぶとく交渉しましたが、同業が提案を行ったことで、お客さまや市場を守るために当社も対応せざるを得ませんでした。したがって 1 月は 12 月よりも低い価格で始まることもあり、2 月の値上げを確実に通し、値段の修正をさらに継続していくことが極めて大事であると考えています。 ・ 昨年と比べて新工場分が増加しますが、増える分のほとんどが輸出向けとなるでしょう。北米向けは昨年分の数量は確保しましたが、北米市場の伸びをみているので、その増加分を捉えていきます。

Q	シンテックの稼働状況と価格動向について
A	<p>(稼働状況について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新工場、既存工場ともにフルで稼働しています。それに伴い、輸出が増えていきます。 <p>(塩ビの価格動向について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 社中 3 社が 1 月の値上げを打ち出しましたが、当社は行いませんでした。その代わり 2 月は 5 ¢ /lb の値上げを打ち出し、1 月打ち出した 3 社は当社に追従する格好になっています。2 月は何としても 5 ¢ /lb を通すという不退転の姿勢で臨んでいます。 ・ 12 月の反動もあり 1 月は出荷が V 字回復していること、2 月も日数換算では 1 月並みの出荷であることから春需と言っていると思います。
Q	シンテックの来期増益に対する見方について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 値段が大事であり、出発点で下がった分を取り返しさらに上げていきます。数量を売り抜くことは心配していません。値段を上げていくのが第一課題です。
Q	昨年の北米におけるハリケーン、ロサンゼルス山火事の復興需要について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハリケーン被害の復興はすでに行われていますが、それなりの時間がかかります。ですので、この復興需要そのものは順次出てきます。ロサンゼルス山火事についても復興需要は確かにありますが、まだ収まっていないのでその需要が見えるのは大分先になると思います。

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの 3Q（10-12 月）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 300mm ウエハーは前年同期比では伸びましたが、前四半期比では若干マイナスでした。200mm ウエハーは前年同期比ではまだマイナスでしたが、前四半期比は横並びでした。150mm ウエハーは低迷しており前年同期比、前四半期比とも続落が続いています。
Q	半導体ウエハーの今期 4Q（2025 年 1-3 月）以降の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 300mm ウエハーでは 10-12 月期に続いて 1-3 月期も在庫調整の動きが続きますが、4-6 月期にはその調整が弱まること、半導体デバイス需要が 2025 年は回復するとの見方が多くなっていることから、需要は増加してくると期待しています。200mm 以下は遅れて調整入りした車載向けの影響もあり前半は厳しい状況が続くと見ていますが、一部のお客さまから、厳しい状況に変わりないものの、ここにきて少し新規の受注が入り始めたとの話もあり、期待をしているところです。

Q	DeepSeek の台頭が半導体材料業界に与える影響について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常にホットな話で世間の見方も定まっていません。ネガティブな側面もあるようですが、ポジティブな側面としてはコストや市場単価が下がることで AI 全体の需要の創造が早まる可能性もあると見ています。
Q	中国のウエハーメーカーの状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国半導体メーカーは、ここ 2-3 年で中国ウエハーの使用比率を徐々に上げてきています。一方、中国外の半導体メーカーの中には、ダミー、モニターウエハーで中国ウエハーを採用しているところもあるようです。 ・ お客さまは半導体デバイスの機能向上に加えて、コスト低減のため歩留まりを最大限上げるように注力されており、一番良い歩留まりを出せるウエハーを求めています。当社は今まで同様、他社に負けないように技術力、品質力を磨き続けていきます。
Q	当社のウエハーの在庫水準について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社の在庫は需要に合わせて適切に管理しています。
Q	デバイスメーカーのウエハー在庫について
A	<p>(在庫の状況について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お客さまの 300mm ウエハー在庫は 10-12 月期にピークになったと思われます。200mm はこの 1-3 月期にピークとなり、以降は減少していくと見ています。 <p>(適正な在庫水準について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在庫水準がどのくらいが妥当かはお客さまによってかなり差があります。以前は 1 ヶ月程度が業界標準でした。今はお客さまごとにかなり差がありますが、2-3 ヶ月程度に変化してきているように感じます。
Q	1-3 月の一部半導体デバイスメーカーの減産による影響について
A	<p>(ウエハーへの影響について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 減産を強めるお客さまもありますが、一様ではなく、全体的に減産の影響を受けるかどうかは、はっきりしません。 <p>(露光材料への影響について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社は先端部分を中心に幅広く色々なお客さまに納入しているため、減産の影響はほとんど受けていません。

〈そ の 他〉

Q	棚卸資産の内容精査に基づく一過性の調整額について
A	<p>(電子材料事業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子材料事業で数十億円後半の影響額になっています。主にレア・アースマグネット原料で、時価と比べて割高になっている部分の評価減を行いました。 <p>(機能材料事業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機能材料事業では 10 数億円程度の影響があります。

〈全 社〉

Q	今期の連結業績予想について
A	<ul style="list-style-type: none"> 通期予想は達成できると考えています。
Q	来期（2026 年 3 月期）について
A	<ul style="list-style-type: none"> 来期に向けて、これまで当社が取り組み、実現してきた増収増益を継続していくという基本的な考え方は変わりません。
Q	現預金の水準について
A	<p>(前四半期比での減少の要因について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 在外子会社の 2Q 末（6 月末）と 3Q 末（9 月末）の為替レートを比べると円高になっていますので、その分は換算額が減っています。 <p>(バランスシート上の現預金の水準について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 3 四半期末の円建ての現預金（約 1 兆 6,000 億円）以上は増やさないように考えています。